乗務員教育記録簿用紙

西北交通株式会社

乗務員への指導・監督の記録

実施月日	令和 6 年 6 月 5 日
時　間	11 時 00 分～12 時 00 分
場　所	北上本店営業所

検印	非公開

非公開

営業所名　北上本店営業所　矢巾営業所

【一般的な指導事項】

- □ ①事業用自動車を運転する心構え
- □ ②事業用自動車の運行の安全及び旅客の安全を確保するために遵守すべき基本的事項
- ■ ③バスの構造上の特性
- □ ④乗車中（運行中）の旅客の安全を確保（ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄの着用等）するために留意すべき事項
- □ ⑤旅客が乗降するときの安全を確保するために留意すべき事項
- □ ⑥主として運行する経路若しくは、経路又は営業区域における道路及び交通の状況
- □ ⑦危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法
- □ ⑧運転者の運転適性に応じた安全運転の指導
- □ ⑨交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因とこれらへの対処方法
- □ ⑩健康管理の重要性
- □ ⑪安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法
- □ ⑫ﾋﾔﾘﾊｯﾄ体験の報告や運転にかかる苦情の申し出、又は事故が発生した場合には当該運転者に対して ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾚｺｰﾀﾞｰにより必要な指導を行う
- ■ ⑬⑫のﾄﾞﾗｲﾌﾞﾚｺｰﾀﾞｰの記録を活用したﾋﾔﾘﾊｯﾄ体験を共有する
- □ ⑭非常信号用具、非常口、消火器の取り扱いの指導

指導・教育の内容

※　バスの構造上の特性

1　バスの特性に合わせた運転（バスの構造上の特性）

(1)　車高の高さに配慮した運転

「車高が高い」という特徴は、車高感覚、前方距離間隔に注意した運転が必要である。

(2)　車長の長さに配慮した運転

「車長の長い」ことから、内輪差が大きい、オーバーハング部がはみ出す等の特徴がある。

(3)　車幅の広さに配慮した運転

「車幅が広い」ことから、接触やはみだしの危険性があるなどの特徴 があり、この特徴に注意した運転が必要である。

(4)　死角の大きさに配慮した運転

「死角が大きい」ことから、直前、側方、後方など見えない部分に配慮した運転が必要である。

(5)　スピードの特性に配慮した運転

車両が大きく重量のあるバスは、スピードが大きな影響を及ぼします。この特性を理解し、法定速度を遵守したゆとりある運転が必要である。

2　多様化する車両に合わせた運転

その用途・使用地域などに合わせて、車両の大きさ、構造などが多様化しています。 多様化するバス車両の特性に合わ せた運転が必要である。

【解説】

バス車両は、その用途や使用地域などに合わせてさまざまな車両があります。小型車両による住宅地などの狭い地域を運行するコミュニティバ スや、ラッシュ時やイベント時の輸送力の増強のために 、連結バスが運行されている地域もある。各種のバスは車長や車幅が異なります。運転にあたっては十分な注意が必要です。

裏面へ

指導・教育の内容	※　ドライブレコーダー、デジタルタコグラフ等を活用し運転の危険性を認識させる。
	※　事業用自動車による交通事故の統計を活用した安全指導 ※　６月の重点管理（降雨時の運転を再教育しよう） 【雨天時の事故防止】雨の日は視界確保とスピードダウン
	●　安全速度を指導しよう
	法定速度で運行すれば絶対安全というわけではない。雨天時等はスリップの危険があるため、法定速度以下の安全速度での走行を指導する。
	●　雨天時の歩行者の行動特性を再確認
	雨に濡れたくない心理から、横断歩道以外の横断や、傘をさしてうつむいて歩くといった歩行者の危険な行動特性を再認識しておく。
	●　タイヤ交換は早めに
	スリップサインが出ているタイヤは交換必須。定期的な車両点検を確実に実施し、スリップサインが出る前にタイヤを交換しておくこと。